

上市川の特徴

上市川は、上市町の早乙女岳(2025m)を水源にもつ、流域面積98.1km²全長24kmの急流河川です。上流の地質が花崗岩主体であり、そのため、中流の河川敷で観察できる礫のほとんどが花崗岩の礫です。河川敷の礫種で比較的似た様子を示すのは早月川ですが、早月川の礫には変成した礫も少なくないのに比べ、この上市川の礫は典型的な花崗岩がより多く見られます。しかし、上流の地質を見ると、泥岩、凝灰岩、砂岩などが露出する場所があり、上市川第2ダム上流の豆山橋など、部分的にかなりの割合で堆積岩の礫が観察できる場所もあります。「流れる水のはたらき」の学習を考えた場合、観察候補地としては、①上流の礫の様子に加えて砂防ダムによる土砂の堆積のため、中流の性質も観察できる上市川第2ダム上流の千石川、②河川敷が広くなり、蛇行の様子や流れの速さのちがいが観察しやすい三杉橋～赤浜橋にかけて、さらには③河口付近が使いそうです。

この上市川は、かつては中流から下流にかけて、ひどく蛇行していましたが、1937年から一年間行われた河川改修によって、直線的な流れに変えられました。富山市と滑川市の境界線が上市川の本流と一致していないのは、上市川の古い流路のなごりです。

富山市と滑川市の境界線は、
河川改修前の上市川の蛇行の様子を示している



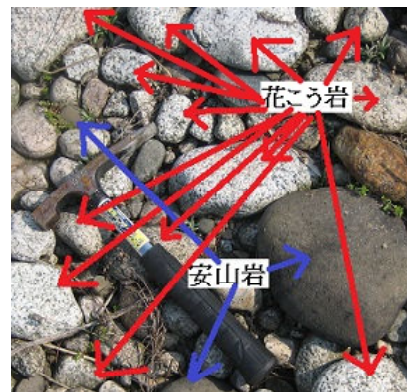
河口でも中流の性質をもつ



三杉橋で観察できる蛇行



赤浜橋付近の礫はほとんどが花崗岩



東橋から上流は、河川改修で河道が制限され、蛇行が困難で川原もできにくい



上市川上流小又川の礫にはまだ角が残っている

